

■ユーザカスタマイズ留意事項・元号改正 (2019. 2. 27)

本資料は、2019年5月元号改正における日レセのプログラム対応について解説するものです。帳票のユーザカスタマイズを行われている場合に於いては、本説明資料を参考に対応してください。なお、診療報酬明細書（レセプト）等、ユーザカスタマイズに直接関係が無い帳票については説明を割愛しています。

帳票の対応内容

1. 帳票の対応内容

帳票プログラムは以下の対応内容が考えられます。

(1). 元号が文字オブジェクトとしてフォームに定義されている帳票の対応

フォーム内に「平成〇〇年〇〇月〇〇日」と”平成”の文字が固定記載されている場合がこれに該当します。平成と記載された帳票の再印刷、又は改元後に平成と記載される帳票の印刷有無により以下の対応方法にわかれます。

- ・再印刷や帳票の再作成により平成で作成しなければいけない場合
平成が固定記載された既存フォームはそのままとし、新元号が固定記載されたフォームの新規作成、及び帳票プログラムで年月日を判定し、セットするフォームIDを変更する対応を行います。日レセでは「**処方箋**」がこれに該当します。
- ・上記（再印刷、再作成）の必要がない場合
既存フォームの文字オブジェクトで定義している「平成」を新元号に修正します。

(2). 元号と和暦年月日が埋め込みオブジェクト(COBOLから編集する項目)としてフォームに定義されている帳票の対応

フォーム内に定義された埋め込みオブジェクト(22Byteで定義)に帳票プログラムから変数として元号+和暦年月日(例:平成31年 4月 1日)を渡している場合がこれに該当します。

この場合は日付変換サブルーチンにて2019年5月1日以降は新元号の返却を行うことから帳票プログラムの修正は必要ありません。日レセでは「**診療録(カルテ)**」の生年月日、「**処方箋**」の生年月日、交付年月日などがこれに該当します。

但し、「**診療録(カルテ)**」の病名開始日、終了日のように元号記載がなく和暦年月日のみを印字している項目について、日レセでは元号の記載を追加する対応とする事からプログラムの修正、及びフォームへの項目追加を行います。

※**診療録(カルテ)**は再印刷を行わない帳票であることから、日レセでは既存の帳票プログラムを修正し4月にパッチ提供を行う予定です。パッチ適用後は病名開始日、終了日が元号付きの記載となります。

2. 診療録(カルテ)の対応内容

フォームの病名の開始日、終了日に元号記載項目を英字1文字分追加します。

標準プログラム(ORCHC1.CBL、ORCHCN01.CBL)の変更内容

昭和=S、平成=H、新元号=■となります。

- ・平成31年4月1日の記載例
対応前 31. 4. 1 → 対応後 H31. 4. 1

3. 処方箋の対応内容

交付年月日により、平成用と新元号用のフォーム ID を選択して実行します。

(1). 対応が必要な内容

項目	フォーム設定	フォーム対応	帳票プログラム対応
生年月日	埋め込みオブジェクト	なし	なし 日付変換サブ
交付年月日	埋め込みオブジェクト	なし	なし 日付変換サブ
処方箋の使用期間	文字オブジェクト 「平成 年 月 日」	あり	なし
調剤済年月日	文字オブジェクト 「平成 年 月 日」	あり	なし

(2). フォームの変更

様式変更のためフォーム ID を追加します。

様式	改元前 (既存フォーム)	改元後 (追加フォーム)
A 5 縦 (QR無)	HC02V04	HC02V041
A 5 縦 (QR有)	HC02QV04	HC02QV041
A 4 横	HCM19V04	HCM19V041

追加フォームは「処方箋の使用期間」、「調剤済年月日」の文字オブジェクトを「平成 年 月 日」から「◇◇ 年 月 日」に変更します。
※◇◇は新元号

(3). プログラムの変更

フォーム ID の設定を交付年月日(診療年月日)により改正後のフォーム ID に切り替えます。

A 5 縦 (QR有) ORCHC02QV04.CBL のプログラム変更内容

```
MOVE "HC02QV04.red" TO MKPRT-DIA
この位置に以下を追加します。
IF SPA-SRYMD >= "20190501"
MOVE "HC02QV041.red" TO MKPRT-DIA
END-IF
```

A 5 縦 (QR無) ORCHC02V04.CBL、A 4 横 ORCHCM19V04.CBL についても同様に改正後のフォーム ID 設定を追加します。

4. 請求書(領収書)の対応内容

標準プログラムについては診療日、発行日について日付変換サブルーチンから返却される元号記載を行っていることから、特に対応はありません。

ユーザがカスタマイズする請求書(領収書)についても特に実施する作業は無いと考えますが、元号記載の追加が必要な場合などは適宜カスタマイズプログラムの見直しを行ってください。

5. 標準提供サブルーチンプログラム

2019年の休日対応と元号改正の対応をしたサブルーチンプログラムを4月にパッチ提供予定です。

内容	プログラム ID
日付変換	ORCSDAY. CBL
画面日付変換	ORCSGDAY. CBL
全角半角変換	ORCSZENHANCNV. CBL

このソースを取得されたい場合はCVSより取得してください。

現在、2019/5/1以降の返却元号はテスト用に全角元号「◇◇」、半角元号「G」を返却します。

Modified files: jma-receipt/cobol/common: ORCSDAY. CBL ORCSGDAY. CBL ORCSZENHANCNV. CBL

補足事項：画面からの日付入力について

<p>日付変換サブプログラム(ORCSDAY. CBL)で改元後の日付をセットした場合の“LNK-DAY1-GENGO”の戻り値は“5”を返却します。(これは確定事項となります) 戻り値 = (1: 明治 2: 大正 3: 昭和 4: 平成 5: 新元号)</p> <p>これに伴い、画面から生年月日、診療日等を和暦入力する場合、2019年5月1日であれば“5010501”又は“G1. 5. 1”等と入力する事になりますが、誤って“4310501”、又は“H31. 5. 1”のように入力された場合は、サブプログラムで“G 1. 5. 1”と正しい元号と年に変換して表示を行います。 ※この場合も“LNK-DAY1-GENGO”の戻り値は“5”となります。</p>

6. API等連携について

帳票プラグインを利用されている場合に新元号の対応が必要となる場合があります。(帳票データの電文に変更はありません。プラグインの変更となります。)

オンプレミスでレイアウトの変更がある帳票については、同様の変更が必要となります。

https://www.orca.med.or.jp/receipt/tec/push-api/report_data_api.html